

# 基礎研 レポート

## 少子化進行に対する意識と政策 への期待(2)

これから子育て世代で約3割が期待、経済基盤の安定化と社会の意識改革が必須

生活研究部 上席研究員 久我 尚子  
(03)3512-1878 kuga@nli-research.co.jp

### 1—はじめに～政府の「次元の異なる(異次元の)少子化対策」への期待は？

「[少子化進行に対する意識と政策への期待\(1\)](#)」では、ニッセイ基礎研究所の調査<sup>1)</sup>に基づき、少子化進行の原因に関わる意識について捉えた。その結果、属性によらない共通認識として少子化の原因には経済的要因がありつつ、子育て中の女性では身体・精神的負担を、若者では経済面以外の負担(身体・精神的負担、時間の無さ)も比較的強く感じている様子が見られた。また、未婚者では結婚や子どもを持つ希望が年齢とともに弱まる傾向があるものの、男性の結婚希望は30～50歳代でおおむね変わらない一方、女性では結婚も子どもを持つ希望も年齢とともに急激に減退していくことが特徴的であった。よって、将来を担う世代の経済基盤の安定化に加えて、家事・育児の負担を低減するための取り組み、結婚や子どもを持つ希望のある若者に向けた啓蒙活動などの必要性も見てとれた。

本稿では、政府の「次元の異なる(異次元の)少子化対策」への期待についての調査結果を見ていく。なお、現在、政府は具体的な政策内容や財源についての検討を進めており、6月の「経済財政運営と改革の基本方針(骨太の方針)」の策定までに公表する予定だ。

### 2—「次元の異なる少子化対策」への期待の程度～期待層は約2割だが、これから子育て世代で約3割

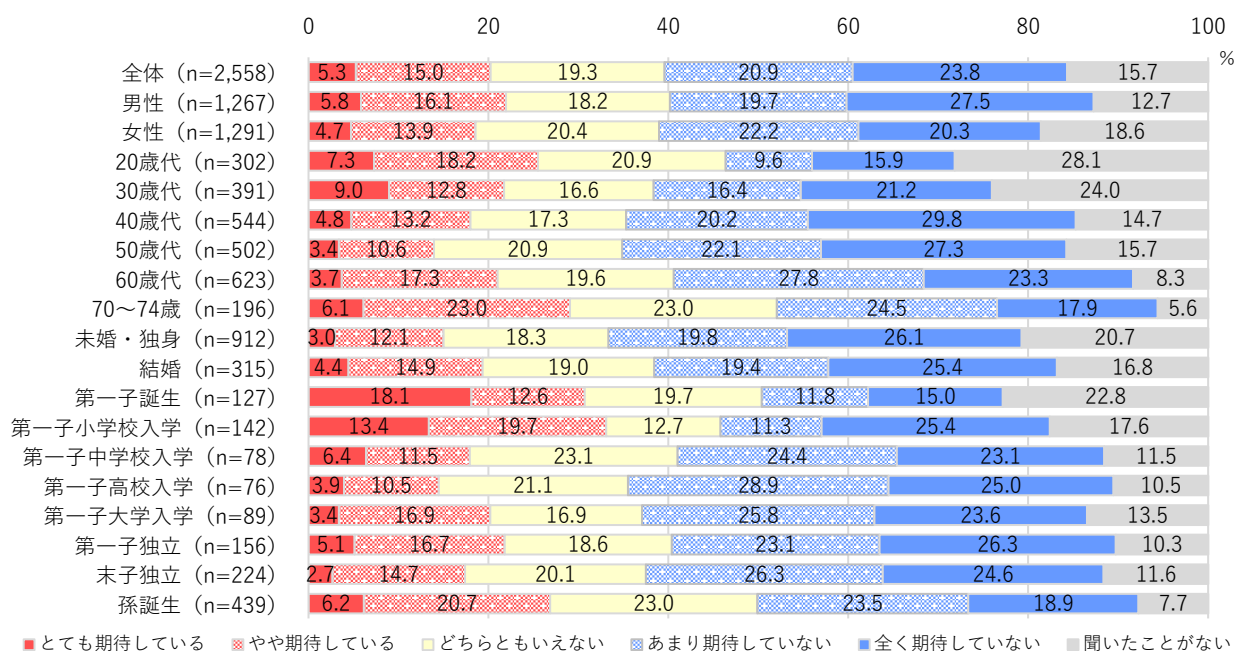
調査では、政府の掲げる「次元の異なる少子化対策<sup>2)</sup>」に対する期待の程度をたずねたところ、20～74歳全体で期待している層(「とても期待している」+「やや期待している」)は20.3%、期待していない層(「全く期待していない」+「あまり期待していない」)は44.7%を占める(図表1)。

性別に見ても、男女とも期待している層(男性21.9%、女性18.6%)は約2割にとどまり、期待し

<sup>1)</sup> ニッセイ基礎研究所「[第12回新型コロナウイルスによる暮らしの変化に関する調査](#)」の枠組みの一部、調査時期は2023年3月29日～31日、調査対象は20～74歳、インターネット調査、有効回答数2,558、株式会社マクロミルのモニターを利用。

<sup>2)</sup> 調査では「岸田首相が年頭の会見で掲げた政策で、政府は6月までに、①児童手当などの経済支援、②学童や病児保育を含めた幼児・保育支援の拡充、③育児休業強化などの働き方改革、を三本柱に、現在は年間5～6兆円である子育て支援関連予算を倍増する方針を示している」との説明を記載した上でたずねている。

図表1 政府の「次元の異なる少子化対策」への期待の程度



(資料) ニッセイ基礎研究所「第12回新型コロナによる暮らしの変化に関する調査」

ていない層（男性 47.2%、女性 42.5%）が期待している層を大幅に上回る。また、男性の方が女性と比べて期待している層はやや多いものの（男性が女性より+3.3%pt）、期待していない層もやや多い（同+4.7%pt）。

年代別に見ると、期待している層は50歳代（14.0%）を底に高齢層（70~74歳 29.1%）や若者（20歳代 25.5%）ほど多い。一方、期待していない層は40~60歳代で約半数を占めて多く、若者（20歳代 25.5%）ほど少ない傾向がある。よって、20歳代では期待している層と期待していない層が拮抗しているが、30歳代以上では期待していない層が期待している層を上回り、両者の差は50歳代で最もひらいている（期待していない層 49.4%が期待している層 14.0%より+35.4%pt）。

なお、若者ほど「（次元の異なる（異次元の）少子化対策について）聞いたことがない」が多い傾向もあるため、20歳代では政策を知らない層（28.1%）が、期待している層や期待していない層をやや上回る（それぞれ+2.6%pt）。

ライフステージ別に見ると、期待している層は第一子高校入学（14.4%）や未婚・独身（15.1%）で少ない一方、第一子小学校入学（33.1%）や第一子誕生（30.7%）で3割を超えて多いほか、高齢者の多い孫誕生（26.9%）などでも多い。一方、期待していない層は第一子高校入学（53.9%）や末子独立（50.9%）を中心に多く、第一子誕生（26.8%）や第一子小学校入学（36.7%）で少ない。なお、第一子誕生では、ライフステージ別に見て唯一、期待している層が期待していない層を上回る（+3.9%pt）。

つまり、現在、高校生の子どもがいるなど子育てが後半に入った世代、あるいは子育てがおおむね終了した世代では政策の期待は弱い、子育て前半世代やこれから子育てをする世代では期待が強い傾向がある。背景には、今回の少子化対策の恩恵を受けられるかどうかがあるのだろう。ただし、これから子育てをする世代でも3割前後は政策に期待をしていないことは留意すべきである。

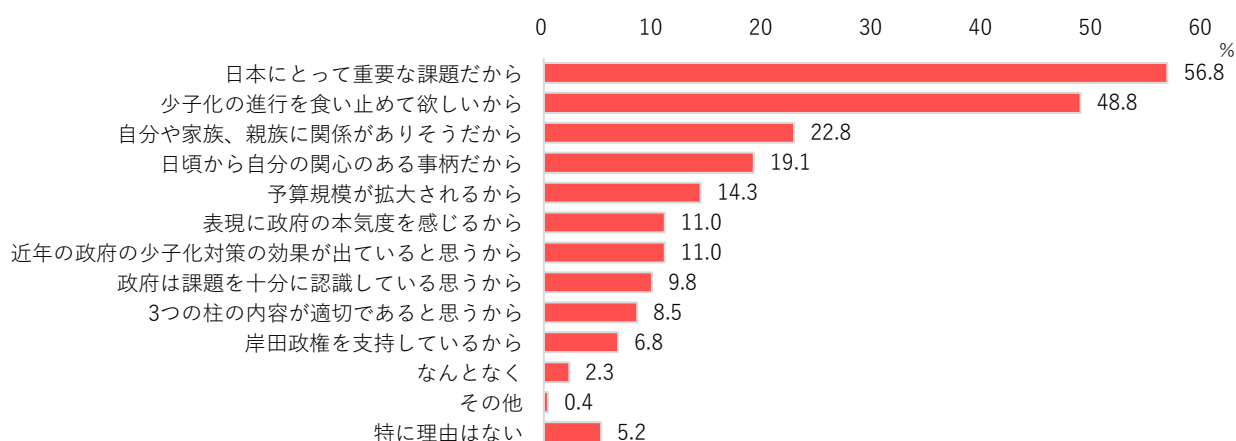
### 3—「次元の異なる少子化対策」に期待している理由～日本の重要課題、子育て中の女性は当事者意識

#### 1 | 全体の状況～日本の重要課題(56.8%)、少子化を食い止めて欲しい(48.8%)が圧倒的に多い

政府の「次元の異なる少子化対策」に期待しているとの回答者に対して、その理由をたずねたところ、最も多いのは「日本にとって重要な課題だから」(56.8%)であり、次いで「少子化の進行を食い止めて欲しいから」(48.8%)が続く、この2つが半数前後を占めて圧倒的に多い(図表2)。以下、「自分や家族、親族に関係がありそうだから」(22.8%)、「日頃から自分の関心のある事柄だから」(19.1%)、「予算規模が拡大されるから」(14.3%)、「『次元の異なる(異次元)』という表現に政府の本気度を感じるから」・「近年の政府の少子化対策の効果が出ていると思うから」(どちらも11.0%)までが1割を超える。

つまり、20～74歳の半数前後は少子化の進行が日本の重要課題との認識から、約2割は当事者意識の強さなどから政策に期待を寄せている。しかし、近年の政策効果や政府の課題認識を十分であると感じている割合は約1割にとどまる。

図表2 「次元の異なる(異次元の)少子化対策」に期待をする理由(複数選択、20～74歳 n=518)



(注) 上から「特に理由はない」を除いて選択割合が高い順

(資料) ニッセイ基礎研究所「第12回新型コロナによる暮らしの変化に関する調査」

#### 2 | 属性別の状況～子育て中の女性は当事者意識から、高齢者は社会課題の解決として期待

性年代別に見ると、30歳代の女性以外は全体と同様に「日本にとって重要な課題だから」や「少子化の進行を食い止めて欲しいから」が首位と2位を占める(図表3(a))。一方、30歳代の女性の首位は「自分や家族、親族に関係がありそうだから」(50.0%)で半数を占めて圧倒的に多く、次いで「日本にとって重要な課題だから」・「日頃から自分の関心のある事柄だから」(どちらも36.8%)と続き、全体で2位の「少子化の進行を食い止めて欲しいから」(28.9%)を遥かに上回る。

また、「日本にとって重要な課題だから」や「少子化の進行を食い止めて欲しいから」は男女とも高年齢層で、「自分や家族、親族に関係がありそうだから」や「日頃から自分の関心のある事柄だから」といった自分ごとであることは女性の20～40歳代(後者は男性の50歳代も)で多い傾向がある。特に女性の30歳代では、自分ごとであることについて、どちらも全体の2倍程度を占めて多い。

このほか、「予算規模が拡大されるから」は男性の20・50歳代と女性の20・30歳代で、「表現に政府の本気度を感じるから」は女性の20・40歳代で、「近年の政府の少子化対策の効果が出ていると思

図表3 属性別に見た「次元の異なる（異次元の）少子化対策」に期待している理由

(a) 性年代別

	全体	男性						
		合計	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70~74歳
度数	518	278	41	47	58	35	68	29
日本にとって重要な課題だから	56.8	52.9	36.6	53.2	41.4	51.4	66.2	69.0
少子化の進行を食い止めて欲しいから	48.8	47.8	43.9	38.3	36.2	51.4	57.4	65.5
自分や家族、親族に関係がありそうだから	22.8	18.7	22.0	25.5	12.1	22.9	16.2	17.2
日頃から自分の関心のある事柄だから	19.1	17.3	22.0	19.1	17.2	25.7	10.3	13.8
予算規模が拡大されるから	14.3	16.5	22.0	14.9	12.1	25.7	13.2	17.2
表現に政府の本気度を感じるから	11.0	11.2	14.6	10.6	10.3	11.4	7.4	17.2
近年の政府の少子化対策の効果が出ていると思うから	11.0	10.4	9.8	17.0	12.1	5.7	10.3	3.4
政府は課題を十分に認識していると思うから	9.8	11.2	14.6	12.8	6.9	11.4	8.8	17.2
3つの柱の内容が適切であると思うから	8.5	9.4	12.2	6.4	12.1	20.0	5.9	0.0
岸田政権を支持しているから	6.8	7.9	7.3	10.6	6.9	14.3	5.9	3.4
なんとなく	2.3	3.2	9.8	4.3	1.7	0.0	1.5	3.4
その他	0.4	0.7	0.0	0.0	3.4	0.0	0.0	0.0
特に理由はない	5.2	5.8	12.2	6.4	5.2	5.7	4.4	0.0

	全体	女性						
		合計	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70~74歳
度数	518	240	36	38	40	35	63	28
日本にとって重要な課題だから	56.8	61.3	50.0	36.8	57.5	74.3	69.8	78.6
少子化の進行を食い止めて欲しいから	48.8	50.0	38.9	28.9	40.0	40.0	61.9	92.9
自分や家族、親族に関係がありそうだから	22.8	27.5	36.1	50.0	35.0	11.4	15.9	21.4
日頃から自分の関心のある事柄だから	19.1	21.3	25.0	36.8	32.5	17.1	9.5	10.7
予算規模が拡大されるから	14.3	11.7	19.4	21.1	15.0	11.4	3.2	3.6
表現に政府の本気度を感じるから	11.0	10.8	19.4	5.3	25.0	11.4	1.6	7.1
近年の政府の少子化対策の効果が出ていると思うから	11.0	11.7	19.4	10.5	15.0	2.9	11.1	10.7
政府は課題を十分に認識していると思うから	9.8	8.3	16.7	5.3	7.5	11.4	6.3	3.6
3つの柱の内容が適切であると思うから	8.5	7.5	8.3	7.9	10.0	0.0	11.1	3.6
岸田政権を支持しているから	6.8	5.4	11.1	5.3	12.5	0.0	1.6	3.6
なんとなく	2.3	1.3	2.8	0.0	0.0	2.9	1.6	0.0
その他	0.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
特に理由はない	5.2	4.6	5.6	10.5	7.5	2.9	1.6	0.0

(b) ライフステージ別

	全体	未婚・独身	結婚	第一子誕生	第一子小学校入学	第一子中学校入学	第一子高校入学	第一子大学入学	第一子独立	末子独立	孫誕生
度数	518	137	61	39	47	14	11	18	34	39	118
日本にとって重要な課題だから	56.8	53.3	39.3	46.2	53.2	64.3	54.5	55.6	52.9	76.9	68.6
少子化の進行を食い止めて欲しいから	48.8	44.5	39.3	28.2	40.4	50.0	36.4	44.4	58.8	59.0	64.4
自分や家族、親族に関係がありそうだから	22.8	13.9	26.2	41.0	44.7	28.6	36.4	16.7	14.7	15.4	20.3
日頃から自分の関心のある事柄だから	19.1	16.1	16.4	30.8	44.7	35.7	27.3	22.2	14.7	5.1	12.7
予算規模が拡大されるから	14.3	14.6	14.8	17.9	19.1	28.6	9.1	22.2	17.6	12.8	7.6
表現に政府の本気度を感じるから	11.0	12.4	6.6	12.8	14.9	35.7	0.0	11.1	11.8	0.0	11.0
近年の政府の少子化対策の効果が出ていると思うから	11.0	13.1	13.1	17.9	14.9	7.1	0.0	0.0	8.8	5.1	9.3
政府は課題を十分に認識していると思うから	9.8	10.9	14.8	12.8	4.3	14.3	0.0	5.6	8.8	2.6	11.0
3つの柱の内容が適切であると思うから	8.5	13.9	3.3	12.8	6.4	7.1	9.1	16.7	2.9	5.1	5.9
岸田政権を支持しているから	6.8	10.2	8.2	0.0	10.6	7.1	0.0	11.1	2.9	0.0	5.9
なんとなく	2.3	3.6	4.9	2.6	4.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.8
その他	0.4	0.7	0.0	0.0	0.0	7.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
特に理由はない	5.2	6.6	16.4	2.6	2.1	7.1	0.0	5.6	0.0	2.6	2.5

(c) 職業別

	全体	公務員 (管理職 および 一般)	正社員・ 正職員 (一般)	正社員・ 正職員 (管理 職)	経営者・ 役員	嘱託・契 約社員	派遣社員	パート・ アルバイト	自営業・ 自由業	専業主婦 ・主夫	無職	学生
度数	518	44	147	34	9	19	5	70	35	88	56	8
日本にとって重要な課題だから	56.8	36.4	50.3	47.1	55.6	57.9	20.0	50.0	45.7	73.9	83.9	62.5
少子化の進行を食い止めて欲しいから	48.8	40.9	38.1	41.2	44.4	57.9	60.0	55.7	45.7	55.7	62.5	62.5
自分や家族、親族に関係がありそうだから	22.8	22.7	27.2	20.6	22.2	10.5	20.0	25.7	5.7	28.4	14.3	37.5
日頃から自分の関心のある事柄だから	19.1	13.6	22.4	32.4	22.2	10.5	20.0	10.0	20.0	17.0	19.6	37.5
予算規模が拡大されるから	14.3	25.0	17.0	23.5	0.0	15.8	0.0	15.7	11.4	3.4	14.3	12.5
表現に政府の本気度を感じるから	11.0	20.5	10.2	11.8	0.0	0.0	40.0	7.1	17.1	8.0	12.5	25.0
近年の政府の少子化対策の効果が出ていると思うから	11.0	15.9	12.9	11.8	0.0	0.0	0.0	10.0	14.3	10.2	10.7	0.0
政府は課題を十分に認識していると思うから	9.8	9.1	10.9	14.7	22.2	15.8	0.0	8.6	17.1	4.5	7.1	12.5
3つの柱の内容が適切であると思うから	8.5	13.6	6.8	14.7	11.1	5.3	0.0	8.6	8.6	8.0	7.1	12.5
岸田政権を支持しているから	6.8	11.4	9.5	5.9	11.1	0.0	0.0	7.1	5.7	1.1	8.9	0.0
なんとなく	2.3	4.5	2.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.4	14.3	1.1	0.0	0.0
その他	0.4	0.0	0.0	0.0	11.1	0.0	0.0	0.0	2.9	0.0	0.0	0.0
特に理由はない	5.2	4.5	4.8	11.8	11.1	5.3	0.0	5.7	2.9	5.7	1.8	12.5

(注1) 上から全体で「特に理由はない」を除いて選択割合が高い順

(注2) 全体より+5%以上をピンク色、-5%以下を水色で網掛け。斜字は参考値。

(資料) ニッセイ基礎研究所「第12回新型コロナによる暮らしの変化に関する調査」



うから」は男性の30歳代と女性の20歳代で、「政府は課題を十分に認識していると思うから」は女性の20歳代で、「3つの柱の内容が適切であると思うから」は男性の50歳代で、「岸田政権を支持しているから」は男性の50歳代と女性の40歳代が多い。

つまり、子育て世帯も多い30歳代を中心とした女性では当事者意識の強さから、また、比較的若い年代では予算規模の大きさや政府の熱意に加えて、近年の政策に効果を感じており政府の取り組みに比較的ポジティブな印象を持っていることから、そして、高齢者では社会課題であることなどから、政府の少子化対策に期待している様子が見られる。

ライフステージ別に見ても、年代別に見た傾向と同様に、「日本にとって重要な課題だから」や「少子化の進行を食い止めて欲しいから」は第一子独立以上の高齢世帯で、「自分や家族、親族に関係がありそうだから」や「日頃から自分の関心のある事柄だから」は第一子誕生から第一子高校入学の子育て世帯が多く、高齢世帯では社会課題であることから、子育て世帯では当事者意識の強さから政策に期待している様子が見られる（図表3（b））。

このほか、「予算規模が拡大されるから」は第一子中学校入学や第一子大学入学で、「表現に政府の本気度を感じるから」は第一子中学校入学で、「近年の政府の少子化対策の効果が出ていると思うから」は第一子誕生で、「3つの柱の内容が適切であると思うから」は未婚・独身や第一子大学入学が多く、年代別に見られた傾向とおおむね重なっている。

職業別に見ても、高齢者比率の高い無職や専業主婦・主夫では社会課題であることから、女性比率の高い専業主婦・主夫などでは自分ごとであることから政策へ期待している様子が見られる（図表3（c））。このほか、公務員（管理職および一般）や正社員・正職員（管理職）では政策を比較的ポジティブに評価しているために（「予算規模が拡大されるから」や「3つの柱の内容が適切であると思うから」が多い）、政策へ期待している様子が見られる。

#### 4—「次元の異なる少子化対策」に期待していない理由～政府の課題認識の甘さ、過去の不成功体験

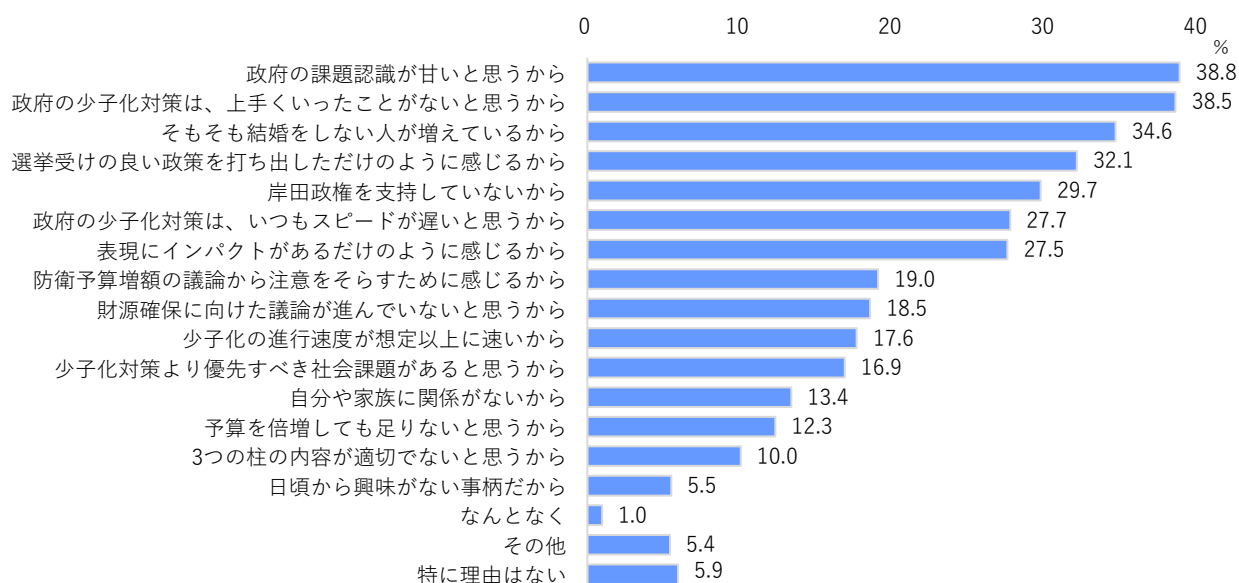
##### 1 | 全体の状況～政府の課題認識の甘さや不成功体験（約4割）、未婚化、選挙対策との懐疑的な声も

政府の「次元の異なる少子化対策」に期待していないとの回答者に対して、その理由をたずねたところ、最も多いのは「政府の課題認識が甘いと思うから」（38.8%）であり、次いで僅差で「政府の少子化対策は、これまでも上手くいっていないと思うから」（38.5%）、「そもそも結婚をしない人が増えているから」（34.6%）、「（統一地方選や衆議院補欠）選挙に向けて、受けの良い政策を打ち出しただけのように感じるから」（32.1%）、「岸田政権を支持していないから」（29.7%）、「政府の少子化対策は、いつもスピードが遅いと思うから」（27.7%）、「（「次元の異なる（異次元）」という）表現にインパクトがあるだけのように感じるから」（27.5%）までが3割前後を占める（図表4）。

また、「防衛予算増額の議論から注意をそらすために感じるから」（19.0%）、「財源確保に向けた議論が進んでいないと思うから」（18.5%）、「少子化の進行速度が想定以上に速いから」（17.6%）、「少子化対策より優先すべき社会課題があると思うから」（16.9%）も約2割を占めて目立つ。

つまり、政策に期待をしていない理由には、政府の課題認識の甘さや過去の政策の不成功体験、主目的は選挙や防衛予算増額であるといった政府の取り組みへの懐疑的な見方に加えて、未婚化の進行や少子化速度が想定以上であることなど現状の厳しい状況などがあがる。

図表4 「次元の異なる（異次元の）少子化対策」に期待をしない理由（複数選択、20～74歳 n=1,145）



(注) 上から「その他」と「特に理由はない」を除いて選択割合が高い順

(資料) ニッセイ基礎研究所「第12回新型コロナによる暮らしの変化に関する調査」

## 2 | 属性別の状況～子育て中の女性は過去の不成功体験、高齢者は選挙目的などから期待せず

性年代別に見ると、20歳代の男性と60歳以上の女性以外は全体と同様に「政府の課題認識が甘いと思うから」、あるいは「政府の少子化対策は、これまでも上手くいっていないと思うから」が首位を占める（図表5（a））。一方、20歳代の男性では「そもそも結婚をしない人が増えているから」・「岸田政権を支持していないから」（41.5%、なお、20歳代の女性も「岸田政権を支持していないから」が「政府の課題認識が甘いと思うから」と同率首位で36.1%）が、60歳代の女性では「そもそも結婚をしない人が増えているから」（47.4%）が、70～74歳の女性では「表現にインパクトがあるだけのように感じるから」（41.5%）が首位を占める。

また、「政府の課題認識が甘いと思うから」は男性の60歳以上や女性の30歳代で、「政府の少子化対策は、上手くいったことがないと思うから」は女性の30～50歳代で、「そもそも結婚をしない人が増えているから」は男性の20歳代や女性の50・60歳代で、「選挙受けの良い政策を打ち出しただけのように感じるから」は男性の70～74歳や女性の50歳以上で、「岸田政権を支持していないから」は男性の20歳代や70～74歳、女性の20歳代で、「政府の少子化対策は、いつもスピードが遅いと思うから」は男性の20歳代や女性の30歳代で、「表現にインパクトがあるだけのように感じるから」は男性の20歳代や女性の70～74歳で、「防衛予算増額の議論から注意をそらすために感じるから」は女性の70～74歳で、「財源確保に向けた議論が進んでいないと思うから」は男女70～74歳で、「少子化の進行速度が想定以上に速いから」は女性の60歳代で、「少子化対策より優先すべき社会課題があると思うから」は女性の20歳代や50歳以上で、「自分や家族に関係がないから」は女性の70～74歳で、「予算を倍増しても足りないと思うから」は男性の20歳代で、「日頃から興味がない事柄だから」は男性の30歳代や女性の20歳代が多い。

つまり、子育て中の女性では過去の政策の不成功体験から、高齢男女では主目的は選挙などといっ

図表5 属性別に見た「次元の異なる（異次元の）少子化対策」に期待していない理由

(a) 性年代別

	全体	男性							
		合計	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70~74歳	
度数	1145	597	41	74	138	136	166	42	
政府の課題認識が甘いと思うから	38.8	39.5	39.0	36.5	32.6	39.0	45.8	45.2	
政府の少子化対策は、上手くいったことがないと思うから	38.5	35.5	34.1	25.7	32.6	36.8	40.4	40.5	
そもそも結婚をしない人が増えているから	34.6	30.8	41.5	27.0	31.2	30.9	31.3	23.8	
選挙受けの良い政策を打ち出しただけのように感じるから	32.1	29.8	22.0	24.3	27.5	33.8	29.5	42.9	
岸田政権を支持していないから	29.7	30.7	41.5	31.1	26.1	31.6	28.3	40.5	
政府の少子化対策は、いつもスピードが遅いと思うから	27.7	28.1	39.0	25.7	23.9	27.2	32.5	21.4	
表現にインパクトがあるだけのように感じるから	27.5	25.1	34.1	23.0	29.7	26.5	19.3	23.8	
防衛予算増額の議論から注意をそらすために感じるから	19.0	17.9	22.0	16.2	15.9	14.0	21.1	23.8	
財源確保に向けた議論が進んでいないと思うから	18.5	19.3	19.5	13.5	15.9	20.6	21.1	28.6	
少子化の進行速度が想定以上に速いから	17.6	16.6	22.0	13.5	9.4	19.9	21.1	11.9	
少子化対策より優先すべき社会課題があると思うから	16.9	12.9	19.5	10.8	7.2	14.7	15.1	14.3	
自分や家族に関係がないから	13.4	12.1	7.3	13.5	13.8	15.4	9.6	7.1	
予算を倍増しても足りないと思うから	12.3	12.9	22.0	14.9	11.6	12.5	13.3	4.8	
3つの柱の内容が適切でないと思うから	10.0	10.9	12.2	10.8	11.6	10.3	10.2	11.9	
日頃から興味がない事柄だから	5.5	6.0	4.9	12.2	5.1	8.1	4.2	0.0	
なんとなく	1.0	1.3	0.0	4.1	0.0	2.2	1.2	0.0	
その他	5.4	5.0	7.3	4.1	2.9	5.1	7.2	2.4	
特に理由はない	5.9	7.9	12.2	9.5	11.6	8.1	4.2	2.4	

	全体	女性							
		合計	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70~74歳	
度数	1145	548	36	73	134	112	152	41	
政府の課題認識が甘いと思うから	38.8	38.0	36.1	43.8	41.8	33.0	37.5	31.7	
政府の少子化対策は、上手くいったことがないと思うから	38.5	41.8	33.3	43.8	45.5	46.4	37.5	36.6	
そもそも結婚をしない人が増えているから	34.6	38.7	33.3	38.4	30.6	41.1	47.4	31.7	
選挙受けの良い政策を打ち出しただけのように感じるから	32.1	34.5	19.4	19.2	35.1	38.4	40.8	39.0	
岸田政権を支持していないから	29.7	28.6	36.1	30.1	27.6	30.4	25.7	29.3	
政府の少子化対策は、いつもスピードが遅いと思うから	27.7	27.2	19.4	39.7	26.1	25.0	26.3	24.4	
表現にインパクトがあるだけのように感じるから	27.5	30.1	22.2	27.4	28.4	30.4	31.6	41.5	
防衛予算増額の議論から注意をそらすために感じるから	19.0	20.3	11.1	12.3	19.4	20.5	22.4	36.6	
財源確保に向けた議論が進んでいないと思うから	18.5	17.7	11.1	17.8	14.2	12.5	22.4	31.7	
少子化の進行速度が想定以上に速いから	17.6	18.8	8.3	15.1	20.9	15.2	24.3	17.1	
少子化対策より優先すべき社会課題があると思うから	16.9	21.2	25.0	15.1	17.9	22.3	24.3	24.4	
自分や家族に関係がないから	13.4	14.8	11.1	15.1	17.9	16.1	9.9	22.0	
予算を倍増しても足りないと思うから	12.3	11.7	11.1	15.1	10.4	10.7	12.5	9.8	
3つの柱の内容が適切でないと思うから	10.0	9.1	8.3	9.6	9.7	9.8	8.6	7.3	
日頃から興味がない事柄だから	5.5	4.9	11.1	4.1	6.0	6.3	2.0	4.9	
なんとなく	1.0	0.5	0.0	1.4	0.7	0.0	0.7	0.0	
その他	5.4	5.8	0.0	4.1	8.2	7.1	4.6	7.3	
特に理由はない	5.9	3.8	11.1	6.8	2.2	2.7	3.3	2.4	

(b) ライフステージ別

	全体	未婚・独身	結婚	第一子誕生	第一子小学校入学	第一子中学校入学	第一子高校入学	第一子大学入学	第一子独立	未子独立	孫誕生
度数	1145	419	141	34	52	37	41	44	77	114	186
政府の課題認識が甘いと思うから	38.8	36.8	42.6	50.0	40.4	43.2	29.3	31.8	35.1	44.7	38.7
政府の少子化対策は、上手くいったことがないと思うから	38.5	38.2	32.6	44.1	32.7	40.5	48.8	34.1	42.9	38.6	40.9
そもそも結婚をしない人が増えているから	34.6	35.6	29.1	20.6	23.1	43.2	24.4	34.1	29.9	48.2	36.6
選挙受けの良い政策を打ち出しただけのように感じるから	32.1	30.1	29.8	17.6	21.2	37.8	31.7	40.9	36.4	34.2	37.6
岸田政権を支持していないから	29.7	30.1	34.8	26.5	30.8	27.0	31.7	22.7	27.3	23.7	31.7
政府の少子化対策は、いつもスピードが遅いと思うから	27.7	25.3	27.0	47.1	38.5	29.7	24.4	11.4	32.5	29.8	28.0
表現にインパクトがあるだけのように感じるから	27.5	24.3	28.4	38.2	30.8	35.1	22.0	22.7	22.1	29.8	32.8
防衛予算増額の議論から注意をそらすために感じるから	19.0	18.6	15.6	20.6	19.2	21.6	17.1	22.7	15.6	17.5	23.7
財源確保に向けた議論が進んでいないと思うから	18.5	17.7	19.1	17.6	13.5	16.2	12.2	18.2	14.3	17.5	25.8
少子化の進行速度が想定以上に速いから	17.6	15.5	14.9	20.6	15.4	24.3	9.8	15.9	11.7	25.4	23.1
少子化対策より優先すべき社会課題があると思うから	16.9	18.1	15.6	2.9	13.5	10.8	14.6	9.1	14.3	20.2	21.0
自分や家族に関係がないから	13.4	18.9	18.4	2.9	9.6	2.7	4.9	11.4	6.5	11.4	8.6
予算を倍増しても足りないと思うから	12.3	11.7	12.8	20.6	5.8	21.6	12.2	4.5	15.6	11.4	12.9
3つの柱の内容が適切でないと思うから	10.0	9.5	9.2	5.9	11.5	18.9	9.8	13.6	9.1	8.8	10.8
日頃から興味がない事柄だから	5.9	6.7	7.8	8.8	9.6	5.4	4.9	9.1	5.2	3.5	2.7
なんとなく	5.5	9.8	5.0	2.9	5.8	2.7	4.9	2.3	2.6	1.8	1.6
その他	5.4	5.5	6.4	5.9	7.7	2.7	7.3	6.8	3.9	5.3	4.3
特に理由はない	1.0	1.4	0.0	2.9	1.9	0.0	2.4	0.0	0.0	0.9	0.5

(注1) 上から全体で「その他」と「特に理由はない」を除いて選択割合が高い順

(注2) 全体より+5%以上をピンク色、-5%以下を水色で網掛け。斜字は参考値。

(資料) ニッセイ基礎研究所「第12回新型コロナウイルスによる暮らしの変化に関する調査」

(次頁へ続く)

図表5 属性別に見た「次元の異なる（異次元の）少子化対策」に期待していない理由（前頁からの続き）

(c) 職業別

	全体	公務員 (管理職 および 一般)	正社員・ 正職員 (一般)	正社員・ 正職員 (管理 職)	経営者・ 役員	嘱託・契 約社員	派遣社員	パート・ アルバイト	自営業・ 自由業	専業主婦 ・主夫	無職	学生
度数	1145	91	222	61	26	53	15	166	109	209	167	9
政府の課題認識が甘いと思うから	38.8	33.0	37.4	37.7	26.9	34.0	26.7	38.6	43.1	39.2	43.1	33.3
政府の少子化対策は、上手くいったことがないと思うから	38.5	35.2	35.6	44.3	34.6	41.5	46.7	37.3	40.4	38.8	41.9	55.6
そもそも結婚をしない人が増えているから	34.6	27.5	32.4	24.6	38.5	34.0	26.7	39.2	35.8	40.2	34.7	33.3
選挙受けの良い政策を打ち出しただけのように感じるから	32.1	28.6	27.0	27.9	38.5	20.8	26.7	27.7	38.5	39.7	32.9	55.6
岸田政権を支持していないから	29.7	28.6	31.1	27.9	34.6	26.4	20.0	19.9	40.4	32.1	28.7	55.6
政府の少子化対策は、いつもスピードが遅いと思うから	27.7	24.2	30.2	29.5	23.1	30.2	33.3	24.7	28.4	30.6	25.1	22.2
表現にインパクトがあるだけのように感じるから	27.5	26.4	28.8	26.2	19.2	20.8	6.7	27.1	27.5	33.5	26.3	44.4
防衛予算増額の議論から注意をそらすために感じるから	19.0	17.6	18.0	13.1	30.8	15.1	13.3	16.9	23.9	22.0	19.2	11.1
財源確保に向けた議論が進んでいないと思うから	18.5	16.5	17.1	19.7	26.9	7.5	13.3	13.3	18.3	23.9	22.8	11.1
少子化の進行速度が想定以上に速いから	17.6	15.4	16.2	11.5	23.1	20.8	6.7	19.9	17.4	19.6	17.4	11.1
少子化対策より優先すべき社会課題があると思うから	16.9	11.0	14.4	19.7	19.2	13.2	20.0	19.3	14.7	19.1	19.8	0.0
自分や家族に関係がないから	13.4	14.3	10.4	11.5	11.5	24.5	33.3	12.0	10.1	14.4	15.6	22.2
予算を倍増しても足りないと思うから	12.3	11.0	12.2	6.6	15.4	13.2	13.3	13.9	11.9	12.9	12.6	11.1
3つの柱の内容が適切でないと思うから	10.0	12.1	10.4	11.5	19.2	11.3	6.7	11.4	9.2	7.7	9.6	0.0
日頃から興味がない事柄だから	5.5	8.8	6.3	3.3	3.8	9.4	13.3	6.0	3.7	1.4	7.8	0.0
なんとなく	1.0	1.1	0.5	0.0	0.0	0.0	0.0	2.4	1.8	0.5	1.2	0.0
その他	5.4	1.1	6.3	1.6	7.7	1.9	6.7	5.4	4.6	5.3	8.4	0.0
特に理由はない	5.9	4.4	8.6	4.9	0.0	11.3	6.7	6.6	4.6	3.3	6.0	11.1

(注1) 上から全体で「その他」と「特に理由はない」を除いて選択割合が高い順

(注2) 全体より+5%以上をピンク色、-5%以下を水色で網掛け。斜字は参考値。

(資料) ニッセイ基礎研究所「第12回新型コロナによる暮らしの変化に関する調査」

た政府の取り組みへの懐疑的な見方から期待していない様子が見えてくる。

ライフステージ別に見ると、第一子大学入学以外は全体と同様に「政府の課題認識が甘いと思うから」、あるいは「政府の少子化対策は、これまでも上手くいっていないと思うから」が首位を占める(図表5(b))。一方、第一子大学入学では「選挙受けの良い政策を打ち出しただけのように感じるから」

(40.9%)が首位を占める。また、それぞれのライフステージで見られる特徴は年代別に見られた傾向とおおむね一致している(文章での表記は省略)。なお、性年代別の結果では、子育て経験者も多い50歳以上の女性や20歳代の女性で少子化対策以外に優先すべき社会課題があると思う割合が約4分の1を占めて多いことも特徴的であったが、このうち20歳代の女性ではライフステージが未婚・独身が約8割、60歳以上の女性では未婚・独身と第一子独立以上の子育て中以外のライフステージが約9割(50歳代は約7割)を占める(ただし、参考値)。

職業別に見ると、パート・アルバイトと専業主婦・主夫以外は全体と同様に「政府の課題認識が甘いと思うから」、あるいは「政府の少子化対策は、これまでも上手くいっていないと思うから」が首位を占める(図表5(c))。一方、パート・アルバイトと専業主婦・主夫では「そもそも結婚しない人が増えているから」(どちらも約4割)が首位を占める。また、それぞれの職業で見られる特徴は年代別などこれまでに見られた傾向とおおむね一致している(文章での表記は省略)。

## 5—おわりに～将来世代の経済基盤の安定化とともに、「こどもまんなか社会」実現の意識改革が必須

本稿ではニッセイ基礎研究所が実施した調査に基づき、[前稿](#)の少子化進行の原因に関わる意識に続いて、政府の「次元の異なる少子化対策」への期待について捉えた。その結果、期待をしている層は全体では約2割にとどまるが、未就学児を子育て中などの子育て前半世代やこれから子育てをしていく世代では約3割を占めて比較的多くなっていた。一方、これらの世代でも、政策に期待していない



層も同程度に多く、その理由には、政府の課題認識の甘さや対応の遅さなど過去の政策の不成功体験などがあがり、特に子育て中の女性では厳しい見方をしていた。

当調査では「『次元の異なる』という表現にインパクトがあるだけ」との声も 27.5%（ライフステージが第一子誕生である未就学児のいる世帯では 38.2%）を占めるが、新型コロナ禍も相まって想定以上に出生数が減少する中では、やはりここで政府には「異次元」の対策を求めたい。

そこで何より重要なことは、これから子育てをしていく世代へ響く対策を実施していくことである。[前稿](#)で見た通り、20 歳代から 30 歳代にかけて未婚者の結婚や子どもを持つ希望は大幅に減退する。希望が減退する前に、将来を担う世代にどれだけ希望を持ってもらえるかが重要だ。

繰り返し述べてきた通り<sup>3</sup>、少子化対策を考える上で、将来を担う世代の経済基盤の安定化を図ることに加えて、子育て中の女性の家事・育児負担を軽減するために子育て支援サービスの拡充や男性の育児休業の促進などもあわせて進めていく必要がある。

政府は今後 3 年間で集中取り組み期間として、「こども・子育て支援加速化プラン」を掲げている（図表 6）。この加速化プランを見ると、児童手当の拡充や住宅支援の強化といった経済支援策のほか、男性の育休取得促進などの女性の負担軽減策も盛り込まれている。

一方で、本稿で見た通り、政策への期待が弱い背景には、過去の政策の効果をあまり感じていない国民が多いこともあるが、そもそも若い世代の経済基盤がゆらいでいることがあるだろう。給付金が拡充されても、生活の土台となる経済基盤、すなわち雇用環境が安定していなければ、結婚も子どもを持つことも考えにくい。

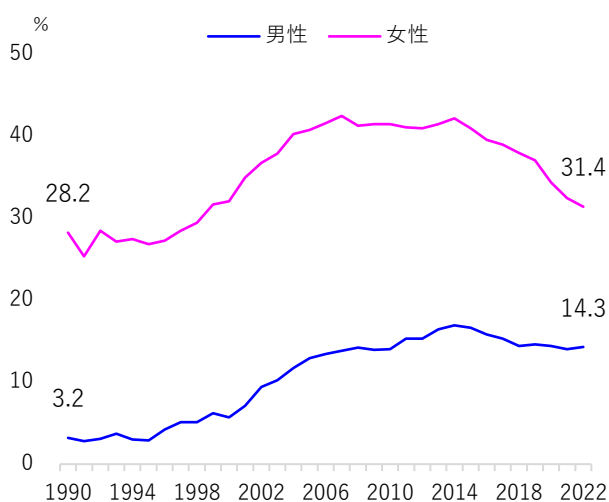
足元では新卒採用が活発化し、初任給の大胆な引き上げに踏み切る大企業も増えているが、ひと昔前と比べて、家族形成期の若者の非正規雇用者率は上昇している（図表 7）。2014 年頃からは景気回復による新卒採用の積極化や「女性の活躍」推進政策によって、女性の非正規雇用者率は低下傾向に

図表 6 こども・子育て支援加速化プランの概要



（資料）首相官邸「こども・子育て政策の目指す社会像と基本理念とは」（2023/4/11）

図表 7 雇用者に占める非正規雇用者の割合（25～34 歳）



（資料）総務省「労働力調査」より作成

<sup>3</sup> 久我尚子「[求められる将来世代の経済基盤の安定化—非正規雇用が生む経済格差と家族形成格差](#)」ニッセイ基礎研レポート（2023/3/27）、「[大学卒女性の働き方別生涯賃金の推計—正社員で2人出産・育休・時短で2億円超、男性並水準で3億円超](#)」ニッセイ基礎研レポート（2023/2/28）など。

あるが、男性ではやや低下している程度であり、1990年と比べて約4.5倍に上昇している。

本来、産業の発展や雇用者の賃金上昇などを期待する場合、労働力の流動化が求められるが、新卒一括採用の歴史の長い日本では、新卒で正規雇用の職に就くことが経済基盤の安定化を図る上では未だ重要である。政府は「2030年代に入るまでのこれからの6～7年が、少子化傾向を反転できるかどうかのラストチャンス<sup>4</sup>」と言うのであれば、非正規雇用の若者の正規雇用化（あるいは正規雇用者と同様に賃金が増加していく見通しを持てるようなキャリアパスに誘導すること）は急務であり、正規雇用の女性の就業継続（出産・子育てで女性の正規雇用の職を途切れさせないこと）を確実に進めていく必要がある。雇用環境からのアプローチは、少子化対策として直接的な解決策には見えにくいかもしれないが、高い効果は期待できるものと考えられる。

さらに、[前稿](#)で見たように、若い世代が子育てに感じる経済的要因以外の負担感の強さも無視できない。少子化の進行が社会課題として認識されていても、子育てをする中では依然として閉塞感を感じることも多いだろう。子どもの泣き声などで肩身の狭い思いをしながら公共交通機関を利用する親は多く、バリアフリーが完備されている施設はむしろ珍しいため、ベビーカーでの外出は苦勞も多い。また、子どもの声が騒音との苦情から閉鎖を余儀なくされた公園などもある。

図表6の加速化プランの中には「こども・子育てにやさしい社会づくりのための意識改革」という項目もある。具体的な数字としてあらわれる経済支援策などに関心は高まりがちだが、社会全体の意識改革も必須だ。雰囲気づくり、というと柔らかすぎるかもしれないが、社会全体でこどもを育てていく、子育てを見守っていく、そして、将来を担う世代の味方であるという雰囲気をいかに醸成できるかが鍵だ。今後、こども家庭庁には、キャッチフレーズでうたう通り、「こどもまんなか社会」の実現を期待したい。

---

<sup>4</sup> こども政策担当大臣「こども・子育て政策の強化について（試案）」（令和5年3月31日）